

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

財団法人かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2010年3月 No.3

今号の内容

- ◇ 高校生短期交流プログラム
韓国・中国から来日
- ◇ かめのりフォーラム2010
第3回かめのり賞表彰式
奨学生体験発表
青少年交流事業報告
ゲストスピーチ
かめのりセッション
- ◇ 高校生交換留学プログラム
マレーシア・韓国へ出発
- ◇ 講演会
釧路・松江で開催

かめのりフォーラム 2010 / 第3回かめのり賞表彰式



高校生短期交流プログラム

韓国・中国から来日

本年1月に韓国と中国からそれぞれ5名の高校生が来日し、1ヶ月間異文化体験をしました。日本語や日本文化について学ぶ1週間のオリエンテーションの後、ホストファミリーと生活を共にしながら高校へ通学。韓国の高校生は古代から韓国との関係が深い関西地域に、中国の高校生は首都圏に滞在しました。「日本の生活様式や文化を体験し、理解する機会にしたい。」「日本の音楽に興味があり、日本語をもっと勉強して歌詞の意味を知りたい。」「学校でたくさんの友だちを作りたい。」「学校でそれぞれの思いを胸にして過ごし

た1ヶ月。自分の国と日本の違いをたくさん発見し、学校では友だちと一緒に授業を受け、短い期間でしたが、異文化を知る楽しさを体験し、日本への関心がより深まりました。今後は日本語の学習はもちろん、この体験を周囲の友だちや家族に伝え、日本の友だち、ホストファミリーとの交流を大切にしていきたいと思っています。

上：韓国からの受入生
下：到着後の懇談会で（中国）



かめのりコミュニティ

かめのりフォーラム2010

2010年1月8日(金)、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて第3回かめのり賞表彰式をはじめ、奨学生体験発表などを行う「かめのりフォーラム2010」を開催。約160名が一堂に集った会場は、本財団の活動報告と奨学生との交流の場となり、盛会のうちに終了しました。また、翌1月9日には奨学生がお互いの留学体験を振り返る「かめのりセッション」が行われました。

写真：来賓挨拶のYFU大河原良雄理事長と
かめのりフォーラムの様子



第3回かめのり賞表彰式

受賞が決定した10の団体・個人へ康本健守理事より正賞の記念の楯と副賞の活動奨励金を贈呈。選考では、①活動自体に独自性を有し且つ将来を見据えた計画を持っていること、②一過性の交流、協力ではなく、活動地域の人々を巻き込み、継続的に自立、発展できるような仕組みを作っていること、③行政はじめ他のセクターとのつながり、地域、他団体との協働の拡大・強化をしていること、④これからの日本の将来に向けて社会に必要となる活動や取り組みをしていることの4点が高く評価されました。

表彰者からは、「受賞を励みに、これまでの活動を礎に新たな目標に向けて進んでいきたい。」との喜びの言葉がありました。

また、会場内では、第1・2回かめのり賞表彰者からの活動報告書の展示をしました。

表彰者(敬称略)



大森和夫・大森弘子

中国を中心に、海外日本語学習者に「日本と日本人」を理解してもらうよう日本語交流を推進。



(特)日中環境保全友好植林実践会

中国東北部での植林を通じて、自然と共生できる住みよい社会の実現と日中の友好親善を促進。



(特)スマイルクラブ

障がい児への運動教室の開催やアジアの国々での障がい児の運動指導の普及、その指導者の育成と交流を推進。



西山友美

ベトナム難民2世の子どもたちへの母国の言語や文化の指導を通じ、地域の国際相互理解を推進。



日本ベトナム友好協会川崎支部

放置自転車をベトナム・ダナン市の子どもたちに寄贈し、ダナン市との独自の交流と友好を推進。



教育と環境の「爽」企画室

インド・ビジャカバトナムなど発展途上国の子どもたちへの就学支援活動を通じ、国際協力を推進。



(特)日パ・ウェルフェア・アソシエーション

パキスタン・ギルギットで貧困層の母子への保健衛生などの支援活動を通じ、相互理解向上と国際協力を推進。



船と翼の会ふくしま

福島県福島市でタイとの交流プログラムの実施や国際理解教育のワークショップを開催し、多文化共生を推進。



エコ・リーグ(全国青年環境連盟)

学生を中心としたアジア15カ国・地域の環境活動のネットワーク形成や人材育成を通じ、国際相互理解を推進。



(特)「飛んで！車いす」の会

北海道札幌市で中古の車いすをアジアを中心に届ける活動を通じ、地域に根ざした国際相互理解を推進。

奨学生体験発表

高校生プログラムに参加した3人の受入・派遣生と大学院生が発表をしました。受入・派遣生からは異なる文化での生活は違いや驚きの連続であること、その分すべてが新鮮で楽しんだこと、「違い」を知ることの重要性に気づき様々なことを学ぶ貴重な機会になったこと、日本と他のアジアの国々の関係や今後、自分が何をすべきかを考えるきっかけとなったという報告がありました。大学院生からは、研究が中心の日々の中で、他国からの留学生や関係者との交流や意見交換も重要であり、様々な行事へ参加し見聞を広めているとのことでした。

来場者は熱心に耳を傾け、「若い世代の異文

化での体験は、多くを吸収し、多様な考えを導くことを感じ、大変良かった。」との声をいただきました。



留学体験を発表をした奨学生たち

青少年交流事業報告

本年度の助成事業を代表し、「日中青年会議」実行委員長、古川知志雄さんより報告がありました。日本と中国の中高校生と実行委員など約70名が集まり香港で開催された会議では、両国の関係などの討論を通じ、意見を共有し、お互いの理解が深まりました。実行委員も大学生で構成され、若い力が中心となった会議は、成功裏に終了したとの報告がありました。

次に、中国・大連を訪問する中学生交流プログラムの説明が(財)国際文化フォーラムの森本雄心さんからあり、中学生は参加への意気込みを発表。大連の中学生に贈るアイデアの詰まった手作りの地図も披露しました。「両国の違いをたくさん発見したい。たくさんのお友達を作り、長く交流を続けていきたい。」と3月下旬の出発に向け準備万端の報告でした。



中学生交流プログラム参加の中学生たち

かめのりセッション

翌1月9日(土)は、高校生交換留学、短期交流プログラム参加者と大学院奨学生が集まり、グループに分かれ体験を語り合いました。留学先の言葉をほとんど話せず異文化の中へ入り、言葉の壁はもちろん「違い」にかなり戸惑ったこと、事前に留学先についてもっと知識を深める方がよいという意見や価値観が変わり視野が広がったという話もありました。大学院奨学生は日本の文化に触れながら、研究に集中できていることや今後の同窓会組織についての意見交換が行われました。お互いの体験を共有し、新たな出会い、交流が生まれたセッションとなりました。

最後に康本健守理事より未来へ向けて、奨学生への期待の言葉がありました。



かめのりセッションの様子

ゲストスピーチ

「民と民との協働」

国際文化フォーラムは、世界の小中高生がお互いのことばと文化を学び、交流し、相互理解を深めることをめざしています。海外の日本語教育を支援しながら、日本国内の外国語教育を促進し、内外の言語教育に関わる人々をつなげる事業を行っており、かめのり財団設立以来助成を受けています。

公益を追求する民間財団は、それぞれに現代社会が直面する課題や社会のニーズを認識し、それに対応するための社会変革に取り組んでいます。日本の公益のみならず、グローバルな視点に立った公益とは何かという難しい問題にも向き合わなければなりません。また、国内外の小中高校の外国語教育をつなげるような場合、自国の言語教育を相手国の子どものために行うという、国家の枠組みを超えた教育の連携構造が生まれます。かめのり財団と協働してきた、海外の日本語教育と日本の中国語教育をセットで支援し、相互主義を貫く事業は、縦割り行政ではやりにくいものであり、民ならではの強みを生かした事業だと実感しています。事業理念を共有した民間同士が、自主独立のイニシアティブで協働することで、より大きな成果を上げることができると思います。

日本では、公の仕事は官の仕事という発想が根深くありますが、今やその意識から脱却し、民としても日本社会、東アジア、ひいては世界の公益のために活動することが期待されます。公の役割を官民でいかに分担し合うのかが問われていると思います。

財団法人国際文化フォーラム
理事兼事務局長 中野佳代子



高校生交換留学プログラム

マレーシア・韓国へ出発

今年も異文化体験への扉を開き、約1年の旅が始まりました。

1月下旬にはマレーシアへ、2月下旬に韓国へそれぞれ2名の高校生が出発しました。出発前懇談会では、「英語圏ではできない貴重な体験をしたい。」「イスラム教のホストファミリーなのでラマダンと一緒に体験したい。」「同世代の文化を学びたい。」「韓国の陶芸を習いたい。」と抱負を話してくれました。



マレーシア・韓国への派遣生

講演会

釧路・松江で開催

本財団の王敏理事（法政大学教授）の講演を2009年11月に北海道釧路北陽高等学校と松江市立女子高等学校で開催。「なぜ異文化理解は必要か」を演題に古代からの中国との交流や餃子の歴史などを例に挙げ、身近なものに目を向けひも解くことで、異文化を知り理解することができ、そして異文化へのさらなる興味と友好関係につながるとの話がありました。また、若い世代には漫画や食べ物など新しい文化を通じ交流を深めてほしいとの願いを伝えました。生徒からは、「違いを知る」＝「理解の必要性」がよくわかった。」「自国についてもっと学び、他国への理解につなげていきたい。」と、大変興味深く役に立ったとの感想がありました。

奨学生のこぼ

体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

私がこの1年間の留学で学んだことは大きく分けて3つあります。1つ目は「異文化を知ることの楽しさ」、2つ目は「言葉が通じる喜び」、最後は「絆と感謝の気持ち」。多くの人との出会いで、何が一番自分にとって大切なことが、今、何をすべきなのかということ考えることができました。

（2009年マレーシアへ留学 脇坂佳澄さん）

日本は私の第二のふるさとなりました。ホストファミリーも第二の家族になりました。そして留学して自分の国を大事に思うようになりました。帰国後は医学部に進み、将来は医師になります。フィリピンの医療はまだまだ不十分ですから私は勉強をがんばって人を助けたいです。

（2009年フィリピンより留学 Ms. Nicole Lim）



上：講演の様子
左：著書を贈呈

2010年度の王敏理事講演会の開催団体（高校、大学、国際交流団体など）を募集しています。詳細はお問い合わせください。
かめのり財団 / TEL.03-3234-1694

今後の予定

3月 【長期】第4期生受入生来日
中学生交流プログラム実施

4月～ 高校生交換留学プログラム 派遣生募集開始
高校生短期交流プログラム 派遣生募集開始

5月～8月 【長期】第4期生派遣生出発

<< 編集後記 >>

かめのりフォーラムに多くの関係者の方々にお越しいただき、無事終わることができました。異文化体験をしてきた高校生が留学先での人々との出会いは何にも代えがたい財産であると言うように、かめのりフォーラムも関係者の方々との出会いがあり、初めて開催できるものです。ご協力、ご支援に改めて深く感謝申し上げます。（菊地）

発行人 / 西田 浩子
編集 / 菊地 佐智子
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)
印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/